

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成28年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0023
所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 清水 康之 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	岩崎 雅江	福祉	H1002063
	②	小出 正治	福祉、経営	H0702006
	③	柳 修二	福祉、経営	H0702077
	④	山村 弘	福祉	H0902065
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	バオバブちいさな家保育園			
事業所連絡先	〒	206-0002		
	所在地	東京都多摩市一ノ宮3-9-1		
	Tel	042-375-4701		
事業所代表者氏名	遠山 洋一			
契約日	2016 年 9 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016 年 9 月 26 日			
利用者調査結果報告日	2016 年 11 月 18 日			
自己評価の調査票配付日	2016 年 9 月 21 日			
自己評価結果報告日	2016 年 11 月 18 日			
訪問調査日	2016 年 11 月 24 日			
評価合議日	2016 年 11 月 24 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたっては、開始時に調査の趣旨などを記した依頼状の配付やポスター掲示などで理解促進を図るとともに、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するほか、必要に応じ提出期限を延長するなどして回収率向上に努めた。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。 クリア

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して毎日過ごす中で心身ともに健やかに育っていく場となる ・保護者が安心して子どもを預けることができ、仕事と子育てを両立していける場となる ・子どもへの思いや子どもの姿を保護者と共有し、共に育てる関係となるよう努める ・職員同士が保育への思いや情報を共有し、協力して仕事を進め、保育者として共に育っていけるように努める ・園が持つ機能や設備を地域の子育て家庭にできるだけ開放し、地域の子育てに貢献できるように努める
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの側、保護者の側に身をおいて考え、思いを汲み取り、沿おうとする。保育の過程を振り返り、同僚とも話し合い、次はどうあったら良いかを構想しようとする。自らを磨き向上していこうとする。職員集団の一員として自らの位置を理解し、園全体の向上を目指そうとする。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であるとの意識を明確に持って、その役割を果たしてほしい。その役割を果たすための組織的努力、個人的努力はどうあるべきかを常に考え、積極的に行動してほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯64(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

64

共通評価項目による調査対象者数

64

共通評価項目による調査の有効回答者数

50

利用者総数に対する回答者割合(%)

78.1

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」68.0%・「満足」30.0%の計98.0%と高い値を得ており、設問別でも「食事」「急な残業等への配慮」「傾聴姿勢」など全16問中14問で80～100%の高い支持を得ている。自由意見では「アットホームで担任の先生以外の方々も子どもの名前を知り、登降園の際に話しかけてくれたり、担任の先生がその日の子どもの様子を細かく教えてくれ、食事も体によいもので安心している」「子ども一人ひとりの性格を理解し、気になっている点などを話すと親身になって相談に乗ってくれる」「のびのびとした自然体の保育で、子どもごとの特技や好きなことを尊重してくれ、対応してくれる」「園全体の雰囲気や穏やかで、先生方がとても楽しそうに保育しており、園の子育て、保育理念がしっかりと軸になり、子ども達が主体となっていると感じられる」「保育時間や保育日の変更等への対応が柔軟で助かっており、他の年齢クラスとの交流を大事に保育をしていて、子どもの成長にとってとてもありがたい」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては日常の保育や行事、安全・保健衛生に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	48	2	0	0
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が96.0%、「どちらともいえない」が4.0%となっている。自由意見は6件で、「お月見の日にうさぎの形をした団子がおやつに出て、なかなか家で行事食をしないのでとても助かっている」「子ども達も一緒に作ったりしており、楽しめていると思う」「子どもはいつもおかわりをしている」などのほか、夕食やおやつの内容に関する意見も見られる。</p>				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	43	5	1	1
<p>「はい」が87.8%、「どちらともいえない」が10.2%、「いいえ」が2.0%となっている。自由意見は3件で、「木登り等、活発に遊ばせてくれている」のほか、戸外活動や遊具のさらなる充実を望む声も見られる。</p>				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	46	0	0	4
<p>有効回答者46人全員(100%)が「はい」と答えている。自由意見には記入がなかった。</p>				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	35	11	2	2
<p>「はい」が72.9%、「どちらともいえない」が22.9%、「いいえ」が4.2%となっている。 自由意見は9件で、「ケガをした後にすぐに対策を考えて実行してくれた」「保育園での事故やケガは少ないと思う」「入口が門と自動ドアの二段階でのロックでよいと思う」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、保護者の当園時の自家用車利用のマナーについて、気になる点や要望が挙げられている。</p>				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	44	6	0	0
<p>「はい」が88.0%、「どちらともいえない」が12.0%となっており、「はい」の値に前回調査時(26年度・78.6%)からの改善傾向が見られる。 自由意見は「土曜日の午後中が基本なので参加しやすく、また懇談会は金曜の17時30分以降で、フルタイムで働く母でも参加率が高い気がする」の1件があった。</p>				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	46	2	2	0
<p>「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が4.0%、「いいえ」が4.0%となっている。 自由意見は3件で、「ちょっとした子どもの様子を相談しても、真剣に対応してもらえる」「ノートで相談をしたり、時間を取ってもらったり、親切にしている」のほか、日常のコミュニケーション機会の設定について、さらなる向上を望む声も見られる。</p>				
7. 職員は保護者の考えを聞く姿勢があるか	47	2	1	0
<p>「はい」が94.0%、「どちらともいえない」が4.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は4件で、「とても親身になって対応してくれ感謝している」「ゆっくりと会話をしてくれる」のほか、職員の傾聴姿勢や相談等への対応、日常のコミュニケーション機会の設定について、さらなる配慮を望む内容も寄せられている。</p>				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	40	8	0	2
<p>「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は7件で、「常にロッカー等が使いやすい配置になるように工夫している」「まだ新しいため、きれいである」のほか、各室内の清掃・整理整頓や衛生管理などについて、さらなる配慮を望む声も見られる。</p>				
9. 職員の接遇・態度は適切か	41	8	1	0
<p>「はい」が82.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は8件で、「若い方も含め、動きやすい服装でとても好感が持てる」「先生方はいつも気持ちのよい挨拶してくれる」などのほか、職員の接遇マナーや服装等について、さらなる配慮を求める声も寄せられている。</p>				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	45	3	2	0
<p>「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が4.0%となっている。 自由意見は3件で、「嘔吐症状の際、マスク・手袋をする等、感染予防の基準があるようなので安心だ」「帰宅後すぐに病院へ行けるよう、早めに連絡をもらえる」のほか、ケガ・体調急変に関する保護者への連絡について、さらなる検討を望む意見もあった。</p>				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	39	4	1	6
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が9.1%、「いいえ」が2.3%となっており、「はい」の値に前回調査時(78.9%)からの改善傾向が見られる。</p> <p>自由意見は6件で、「いさかきもきちんと状況説明してくれるので、どうしてそのようになったのかがわかりよい」「他の子が泣いている時も、しっかりと対応しているところを見たので、よく見てくれていると感じる」のほか、子ども間のいさかき等の際の保護者への情報提供、子ども一人ひとりへの配慮や目配りなどについて、さらなる向上を求める声も見られる。</p>				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	4	0	0
<p>「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が8.0%となっている。</p> <p>自由意見は「自分勝手な行いで周りに迷惑をかけていけば、気持ちを汲み取りながら、でも違うということを伝えてくれている」「どのクラスもそう感じ、職員の方の優しい声かけを一瞬でも見ると安心する」など3件が寄せられている。</p>				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	2	0	6
<p>「はい」が95.5%、「どちらともいえない」が4.5%となっており、「はい」の値は前回調査時(82.9%)からさらに上昇している。</p> <p>自由意見は2件で、「そう信じたい」のほか、プライバシー保護等へのさらなる配慮を求める内容も見られる。</p>				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	44	3	1	2
<p>「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が2.1%となっており、26年度の前回調査時(「はい」76.2%)に比べて改善が見られる。</p> <p>自由意見は4件で、「壁新聞やお便り、連絡ノートで伝わってくる」「上のクラスになり、さらにそう感じる」のほか、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる向上を望む声も寄せられている。</p>				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	39	5	0	6
<p>「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が11.4%となっている。</p> <p>自由意見は2件で、「忙しい中でも対応してくれている」のほか、不満・要望等に対する対応について、さらなる配慮を望む内容もあった。</p>				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	22	7	4	17
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が21.2%、「いいえ」が12.1%となっている。</p> <p>自由意見には記入がなかった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリー1の講評	
	保育や子どもの育ちに寄せる法人の思いについて、関係者との共通理解に努めている 子どもの自己肯定感やさまざまな人と認め合える開かれた心の育みを大切にし、保護者とともに子育てを進めてゆくことを法人共通の願いとして、保護者には入園時やその後の折々の交流機会を通じ、さまざまな形で伝えて相互理解を図っている。職員には入職時の法人共通のオリエンテーションのほか、園内では年度当初の職員会議で准職員も交えて確認しており、保育雑誌の記事をもとに保護者の思いについて話し合ったり、経営層から保育の仕事の持つ価値や大切さを改めて伝えるなど、園の目指すものについての共通理解を図っている。	
	現場の総意を踏まえた民主的な運営に努めつつ、組織の活性化にも取り組んでいる 27年度に法人において人材育成・内部研修体制と連動した職階区分を新設し、園長・副園長を管理者層として、その他の職位とともに必要な研鑽と自覚を促し、階層ごとの研修プログラムの考え方もこれらの階層に対応させている。園長・副園長は必要に応じ現場リーダー層と協働して園の統率にあたりつつ、若手・中堅層が厚みを増した組織の現状を踏まえ、彼らの主体性や自主性を促すことも意識している。	
	園・法人の各単位で、意思決定や重要案件の伝達についての手順を定めている 職員必携の手引書「BBハンドブック」に経営層の業務内容と責任の所在が示されており、園としての各種重要案件の検討は園長・副園長及び各クラス代表などが出席する運営委員会、常勤職員が集う職員会議において主に行い、決定事項等は記録の供覧や毎日のミーティング、クラス単位での個別伝達によって職員に伝えられる。法人単位では理事会や各園園長が参集する毎月の企画調整会議で検討され、各園に展開されることとなっている。保護者には主に書面の配付・掲示や園便りによって重要な決定・変更を伝えている。	

2 カテゴリー2		
経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>職員に対し、社会人・保育者としての各種規範をさまざまな機会に啓発している</p> <p>保育課程や「職員綱領」に子どもの尊厳・存在の尊重、保育者としての研鑽、保護者や地域との連携などを定めるほか、「BBハンドブック」内に職員としての基本行動や守秘義務、子どもへの接し方や服装・身だしなみ、健康管理など社会人・保育者としての各種規範を記載しており、これらを入職時の教育機会において職員に周知させている。また年度開始時の会議でも保育誌の記事をもとに話し合い、法人の目指すものへの理解につなげるほか、准職員にも書面で子どもの人間形成の基礎を培う仕事に従事する者としての心構えなどを伝えている。</p> <p>地域に園の情報とさまざまな専門資源を積極的に提供し、役割の発揮に努めている</p> <p>今年度全面刷新された法人のホームページを通じ、当園の情報や法人の財務状況などを公表するほか、「いなほ祭り」での周辺住宅へのチラシの配布、今年度の東園舎お披露目の際の地域関係者の招待など、透明性の確保に努めている。また東園舎で今年度から再開した地域子育て支援では、親子サロン「びーだま」や定期利用／一時保育「こあら」、栄養相談・健康相談、絵本・書籍の貸し出し「こたろう文庫」や本園舎での保育体験、市内の系列園とのタイアップによる外部講師を招いての育児講座など、多彩な取組を行っている。</p> <p>ボランティア等の受け入れや地域の関係各機関との連携にも取り組んでいる</p> <p>社会人・学生などの夏季ボランティアや地元の中学校からの職場体験生が来園しており、受け入れは「BBハンドブック」に記載の手順と流れに沿って行い、各種心得を説明のうえ個人情報保護に関する誓約書の提出を受けている。毎月の市私立園長会への参加のほか、児童館での近隣各機関との情報共有も年間数回程度行い、地域の自治会とも防災に関する研鑽や祭礼・行事等の際の交流が持たれるなど、地域の各社会資源との連携にも努めている。</p>		

カテゴリ-3		
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
苦情を含む保護者の個別の意見をさまざまな窓口を通じて把握し、解決につなげている 苦情解決制度及び第三者委員が設置され、制度の概要や委員の連絡先等を記載した書面を玄関に常置するほか、入園時の説明に加え、ホームページにも掲載するなどして周知を図っている。また園内に「なんでもご意見箱」を設置している。これらの仕組みとともに、日々の会話・「子育てノート(連絡帳)」、面談等を通じて寄せられた個別の意見・要望について、毎日のミーティングで報告がなされるほか、案件に応じ個別に対応したり、保育や運営、設備面等に適宜反映するとともに、意見の内容や対応経過を「インシデント報告書」などに記録している。		
保護者全体の意向の傾向把握にも積極的に取り組み、運営・保育や行事の参考としている 第三者評価受審等によって外部機関の利用者調査を実施した場合は、結果の概要を保護者に書面で報告しており、数値結果を独自にグラフで表示し、自由意見は主要を抜粋して回答を付記するなど、明快なフィードバックに努めている。また各行事の開催後には、保護者の感想を連絡帳や送迎時の会話などから収集し、各担当が集約して職員会議などで報告している。いずれも課題を抽出のうえ、運営・保育や次年度の行事における参考としている。企画中の行事についても玄関に設けた掲示スペースなどを通じて提案を募るなど、保護者の意向の把握に努めている。		
地域の子育て事情やニーズ、保育・福祉に係る各種情報の収集にも取り組んでいる 保育所体験の参加者にアンケートを行い、感想や地域事業への要望などを把握するほか、親子サロン「びーだま」などで寄せられる育児相談なども、昨今の子育て事情や地域ニーズを知るよすがとなっている。また市の私立園長会や行政・保育団体等の各種発信・研修などから保育・福祉に係る各種情報を収集し、職員にも資料配付等によって適宜伝え、啓発の一助とするほか、法人の中・長期計画において参考としたり、今年度開始前には都の通達を踏まえてSIDS対策としての呼吸・体勢等の確認方法を検討するなど、情報を随時活用している。		

カテゴリー4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>法人の長期的な経営方針のもとで、年度単位の事業計画が策定・実行されている</p> <p>24年度からの各5年3期の15年計画に、法人としての経営や事業展開の方向性と課題を示している。第1期の最終年にあたる今年度予定していた計画の見直しは、今般の社会福祉法人制度改革等への対応を優先して29年度に延期し、これに代えて見直しの際に念頭に置くべき諸課題を示している。園単位では各年度の事業計画を策定し、前年度の振り返りと年度の目標・課題、保育・安全衛生など園運営の成立要件となる各項目で年度の方針を定めている。計画は園長が作成した原案に職員の意見を適宜反映させ、理事会で承認する流れとなっている。</p> <p>短期の各活動では、現場の能動的な参画と着実な実行が期されている</p> <p>園内の各業務と年間の主要行事、安全衛生などについて係分担・委員会が設置され、常勤職員がいずれかの役割を担うこととして、トップダウンのみによらない活発な現場の参画による運営につなげている。それぞれの担当係・委員会が行事などの活動単位で打ち合わせを行い、準備から実行までの進捗管理や実施後の反省を行っている。各活動とも担当者が任意に計画を立案するほか、実施記録や資料に詳細を記すことで、次回・次年度の再現性を担保しており、活動内容等の確実な継承や企画の際の参照の利便を考慮し、企画書様式等の策定も検討している。</p> <p>保育中のケガ・災害等への対応など、さまざまな取組による安全の確保に努めている</p> <p>「安全衛生委員会」の定例会議を毎月開催し、毎月行うハード・ソフト各分野の事故防止チェックなどをもとに、設備・環境と援助の両面から再発防止策を検討するほか、各種訓練の反省などを行っている。また保育中のケガやその要因となりうるヒヤリハット事例について、対応する各様式への記録と毎日のミーティングを中心とした情報共有を図り、再発防止につなげるとともに、看護師が園内で発生した発熱・ケガ等を月次・年度の各周期で集計している。毎月の避難訓練による地震・火災等への対応の確認も行い、不審者対策訓練の実施を課題としている。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賞金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
カテゴリ-5の講評	
法人として職員の採用・育成の仕組みを定め、必要な人材の確保に取り組んでいる 人材の採用は、常勤職員は法人、准職員は各園が行い、常勤者は書類・筆記試験と面接及び実技により選考し、面接に各園園長が関わることで組織の現況を踏まえた人材の獲得につなげている。また職員育成や自己研鑽の基本指針として「『職員としての育ち合い』ファシリテーションプログラム」を定め、対応する能力・資質の指標や内外での研鑽内容などを一覧化している。職員自己評価では労働環境等に意見が見られるが、保育や子どもの育ちにおいて大切にすることをさらに共有しつつ、年齢ごとの事務負担のバランス等にも配慮し、対応を図る意向である。	
全職員の個別の目標管理や各種研修の活用など、組織的な資質向上に努めている 「振り返りと学び(自己評価)」の提出と副園長との面談を通じた緩やかな目標管理を全職員に運用している。毎年度末に翌年度の目標・課題を設定し、これに基づいて研修派遣や職場内指導、自己研鑽などを行う仕組みとなっており、今年度は様式を一部改定して園長の所見を記入する欄を設けている。また職員が受講した各年齢の保育や子どもの発達、発達援助や食育・保健衛生など外部の各研修の成果は、報告書の提出・配付や報告会の開催によって共有を図っており、報告書様式や資料の共有方法にも工夫を加えて学びが深まるようにしている。	
個人と組織の能力発揮を図り、法人による働く場としての環境整備もなされている 各人が自主的判断の基準とすべき心の持ち方を含め、職員としての心得は「BBハンドブック」の各章に示されている。また各レベルでの会議を主な機会として、保育全般や今年度注力する児童票の保護者との共有に向けた様式の改定などについて、さまざまな課題検討がなされており、この中で重ねられる相互の助言や意見交換などを通じ、各職員の参画意識や向上意欲の発揚が図られている。各職員の育成・処遇等に関する意向は経営層による面談などから把握し、必要な対応につなげられるほか、退職金や各種休暇・慶弔見舞金などの各種制度が整備されている。	

7		カテゴリー7	
情報の保護・共有			
サブカテゴリー1(7-1)			
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当	
カテゴリー7の講評			
書類・電子データの適正な利用と管理の厳格化に向け、各種の仕組みを設けている 園内には事務室のほか職員室も設置され、主な書類の管理を各室で行っている。用途や機密性に応じた保管場所の設定や書棚の施錠のほか、所定の年限に基づく移動・廃棄により、権限に応じた情報の利用と流出・毀損の防止を図っている。また各PCには使用者により固有または共通のパスワードが設定されるとともに、複数のLANとログイン権限の設定による職位・職種に応じた情報共有がなされている。園舎全体が機械警備で保護されるほか、事務室・職員室の休日・夜間の侵入防止のための設備も整備されている。			
保護者に個人情報の利用目的等を伝え、肖像利用等に関する意思確認を行っている 保護者が入園時に記入する「生活状況調査票」をはじめとする各様式に、個人情報の利用目的が記載されているほか、ホームページや取材など対外的な発信媒体での子どもの肖像の利用、登降園時のチェック表への記入及び園内での写真掲示については、それぞれ書面による意思確認を毎年度行っている。開示請求への対応については、法人ホームページ上の個人情報保護方針に記載するほか、請求や決定通知の様式を整備している。			
職員・ボランティア等に対し、個人情報保護の徹底を促すための啓発の機会を設けている 「BBハンドブック」に複数の章を設け、保護者との会話や事務作業時における遵守事項など個人情報保護に係る基本心得、日常の業務で主に使用する各書式の記入時の注意点、保管・廃棄の際の原則やデータ情報の園外持ち出し禁止などを定めており、職員には入職時の同ハンドブックの説明の際にこれらについても確認を促し、准職員を含む全員から誓約書を取得している。実習生・ボランティア等に対しては、受け入れ時に職場体験・保育体験ボランティアの方へ」に基づいて留意事項の説明を行ったうえで、誓約書を取得することとなっている。			

カテゴリ-8

8 カテゴリ-1～7に関する活動成果

サブカテゴリ-1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」
・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」
・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

組織の目指すものの共通理解を図り、再開した地域への子育て支援にも取り組んでいる
職員への倫理面の啓発機会として、年度開始時の職員会議で保育誌の記事を題材に「子どもはすばらしい」と保護者が実感する意味について話し合い、意見を交わす中で園の目指すものの共通理解にもつなげるほか、准職員には「園長からのお願い」と題した書面を配付し、保育の仕事の持つ子どもの人間形成の基礎を培う大切な意義や、園という職場が子どもにとっての生活の場であり、保育の環境そのものであること、保護者ともそれぞれの境遇や生活背景を尊重し、よい関係を築くべきことなどを発信している。
また現園舎への移転に伴って休止していた地域子育て支援を、今年度の東園舎竣工を機に同園舎で再開し、親子サロン「びーだま」をはじめとする各活動を通じて、市内の未就園世帯に園の専門資源を提供している。
安全面でも災害発生時などに備えての各種備蓄品のメンテナンスを行うほか、収納用のスチール性の物置を新たに設置している。
その他法人において、今年度パワーハラスメント規程が整備されており、年度内にこれに関連し、組織内のコミュニケーションのあり方について職員とともに考える機会を持つ予定としている。

サブカテゴリ-2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

さまざまな機会を活かし、組織としての知見の共有と学びの充実が図られている
各職員が保育をはじめとする各分野の外部の研修を受講し、見識を深めるとともに、学習成果を報告書の提出・配付や報告会の開催によって組織内に展開している。
さらに各クラス及び全体の各単位で、会議を通じた実務の振り返り、課題や企画の検討がなされている。反省を単なる実施後の課題抽出にとどめず、各職員の保育者・担当者としての内省の機会とするとともに、それを話し合いなどによって共有したり、互いに考えを伝え合ったりすることで、組織的な資質向上の機会としても活かしている。年2回の保育の振り返りで行う、各クラスの子どものエピソードとそれに対する考察、それらへの各職員の感想などを全園で共有する取組や、法人として目指す児童票を介した保護者との子ども一人ひとりの育ちの共有に向け、より詳細に子どもの状況を記載するための児童票の様式改定について話し合う取組など、組織としての知見の共有と学びの充実が図られている。
また法人において今年度ホームページを刷新し、当園のページを含め、各種情報を更新して充実を図っている。

サブカテゴリ-3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」
・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保育において、環境・活動の両面でさまざまな充実や新規取組がなされている
児童票「あゆみ」やポートフォリオ(子どもの日常の保育場面を写真や文章で表記した資料)を活用し、それぞれの保護者に子どもの育ちの現況や見通し、保育者の思いなどを伝える取組に注力し、そのための児童票の様式の改定にも取り組んでいる。また各年齢の子どもの心身の発達推移や、年間の各期の保育活動を踏まえ、各々の環境構成を随時見直すほか、園庭では鉄棒・雲梯の設置とともに梅の樹木の活用を深め、3・4歳児を中心に幼児の全クラスを開放して子どもたちが自由に行き来し、それぞれに遊びを選択して取り組むなど、幼児の異年齢活動も始められている。
さらに「10分ミーティング」の効率化を図るべく、各クラスの出席状況をホワイトボードに記載し、ミーティング内で子どもの様子を伝えられるようにするほか、准職員との情報共有の徹底に向けた記録用ノートの活用も開始している。その他、3・4歳児の混合クラスの呼称を子どもにもわかりやすいよう保育室の名前で統一したほか、「安全衛生委員会」による各室内の備品の落下防止に向けた補強・近くの用水路からの水の流入に備えた土のうの購入、溺水事故に関する報道事例を踏まえた対策の見直しなど、さまざまな取組を行っている。

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

財政・収支バランスの最適化に向け、さまざまな取組がなされている

法人及び系列各園の財政面の管理は、業務委託する会計事務所の支援のもとで行われている。これを含め、年間及び月次の予算に基づく管理がなされるほか、日常的な省エネ・省資源化の励行など、現場レベルで実施可能な経費抑制に努め、財政・収支バランスの最適化を図っている。これらの取組が、成果として現状の収支バランスに寄与していると考えられる。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者の声を多様な方法で収集し、運営や保育・行事等における参考としている

苦情解決制度や園内の意見箱、保護者との折々の対話の機会や「子育てノート(連絡帳)」などから、個別の意見・要望等を把握するほか、各行事の開催後にも子育てノートや会話などから感想を収集し、各懇談会や「ワークショップ」などのさまざまな保護者との交流機会も活用して、全体的な意向の傾向把握にも取り組んでいる。

それぞれの保護者の声は運営や保育・行事等における参考とされており、訪問調査時には個別の改善事例等は確認されていないが、利用者調査における満足度は質問別・全体ともに前回調査時と比較して上昇を得ており、上記のさまざまな意向の反映努力も、これに寄与していると考えられる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>新体制に伴って各種媒体を刷新し、園に関する情報提供の充実を図っている 平成26年度から現在の所在地に移転し、名称を「バオバブちいさな家保育園」に改めて運営にあたっている。これに伴い見学者に配付するパンフレット等も刷新しており、表紙を飾る法人のシンボルツリーであるバオバブの木や、保育目標等そのままに、園舎の見取り図や概要などを掲載している。また今年度、園舎向かいに子育ての拠点となる東園舎を建てて親子サロン「びーだま」を再開しており、併せてそのパンフレットも刷新して見学者に配付している。ホームページも今年度リニューアルするなど、情報提供の充実を図っている。</p> <p>多摩市の各種媒体や各種の社会資源も活用し、園の情報を地域に提供している 市のホームページには園の連絡先や所在地、地図が掲載されているほか、園のサイトにも接続ができるようになっている。また市作成の冊子「保育所等入所のしおり」にも園の基本情報のほか、保育の特徴や目指す保育などの情報が掲載されている。また近隣に所在する法人の系列園と協働している地域子育て支援事業の情報紙「プレーメンの庭から」を地域の健康センター・児童館・公民館など各所に設置するなど、地域の社会資源を活用した情報発信にも取り組んでいる。</p> <p>見学は時季や見学者の状況に合わせた丁寧な対応を心がけている 見学は時季などに応じて対応方法を変え、合同での見学会とすることもあるが、希望者の都合に合わせた時間帯で個別の対応をすることを基本としている。電話で予約を受け付けており、平日夕方や土曜日の見学にも柔軟に対応している。見学者には園と地域向け親子サロン「びーだま」の各パンフレットを渡し、園内を案内しながら保育の考え方や特色、食へのこだわり、卒園後の支援の継続などについて説明するほか、見学者の状況に合わせた説明や育児の相談に応じた丁寧な対応を心がけ、不安や疑問の解消につながるようになっている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明会で重要事項を説明し、書面によって同意の確認を行っている</p> <p>入園前には説明会を開催し、「入園のしおり(重要事項説明会)」に沿って、園の大切にしている保育への思いとして、集団一律の保育ではなく一人ひとりの状況に応じた支援することを伝えるとともに、利用開始に必要な情報を副園長・保健担当・担任などから説明がなされている。また持ち物については保護者が実際の準備物をイメージできるよう、見本を見せながら担任から説明がなされている。説明後には質疑応答を行うほか、写真等の取り扱いや説明への同意はそれぞれの書面提出によって確認している。</p> <p>入園前の個人面談で保育開始に必要な子どもの状況を確認し、支援に活かしている</p> <p>入園前に行われる個人面談では、保護者から提出される「保育予備調査票」「生活状況調査票」などの書類を参考にしながら、入園前の睡眠・排せつや予防接種・罹患状況などの入園前の子どもの状況、保護者の就労状況や意向などを面談シートに沿って確認している。食物アレルギー等の個別の配慮が必要な場合は、保健・調理・担任による面談を別途行って保護者に確認するなど、保育開始に必要な情報を確認している。提出書類は個別にファイリングされ必要に応じて閲覧できるほか、把握した情報は職員会議で共有を図って入園後の支援に活かしている。</p> <p>入園直後の配慮で親子の不安の軽減に努め、利用終了後の長期の支援にも取り組んでいる</p> <p>入園直後には保護者の就労や子どもの状況に応じた保育日数・時間で徐々に長時間保育に移行しながら、新しい環境にスムーズに移行できるよう配慮するほか、0歳児の保護者には、登園初日に子どもと一緒に半日保育を体験してもらい、不安の解消につなげるとともに、離乳食への理解につなげている。卒・退園後には「いなほ祭り」の案内を卒園児等に送付して参加を呼びかけ、関係の継続につなげており、今後さらに独自の支援を活発化させたいと考えている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p> 子どもの家庭状況や発達状況を把握・記録する仕組みが構築されている 入園時には各種様式と個別の面談によって子どもの状態や成育歴、家庭の状況などを把握するとともに、それらの情報を会議等を通じて共有するほか、児童票として個別ファイルに綴り、職員が必要な時はいつでも閲覧ができるようにしている。入園時に行われる個別面談では子どもの発達や既往症・予防接種状況などの保健情報のほか、アレルギーや離乳食の進み具合、家庭での好きな遊びや育児方針、要望なども含めて把握している。子どもや保護者の状況に変更が生じた時には随時訂正を入れ、内容を職員間で共有している。 </p> <p> 保育課程をもとに計画を策定し、保育実践が行われている 年度当初に「BBハンドブック(保育課程)」の読み合わせを行い、共通理解を図ったうえで保育実践を進めている。年間計画は昨年からの変更箇所を青字で示し、期ごとに振り返った内容を追加した項目は赤字で加筆をして、翌年度の計画に反映させている。また「振り返りと学び」として年度半ばと年度末に保育全般を振り返る機会を設け、子どもへの支援や日々の活動について日誌等を読み直したうえで振り返るほか、子どもの個別のエピソードを動画や写真も活用して職員間で共有を図り、子どもの思いを多面的にとらえながら次期の保育へとつなげている。 </p> <p> 子どもの発達や家庭の状況、保育の情報を職員間で共有するシステムが整っている 年度末には次年度へ向けての会議が行われ、各クラスの子どもの把握とともに、年間を見通した保育全般の内容を検討・共有を行い、職員全員の共通認識を確認する機会となっている。クラス会議では個別の様子を話し合い、各職員の思いや子どもへの保育者の関わり方、保護者の要望等を職員間で共有を図っている。また毎日10～15分程度の時間を取って行うミーティングでも子どもの姿や育ち、その日の健康状態や家庭からの伝達事項などを伝え、全職員が同じように子どもへの支援や配慮ができるようにしている。 </p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報保護の仕組みを整備し、援助の際の羞恥心への配慮の工夫にも努めている</p> <p>入園時には「入園のしおり」を通して個人情報の保護についての説明をするほか、書類で署名承認を得て保護者の意思確認をしている。またトイレのドアの設置や排せつの失敗などの際の子どもの心情に配慮した言葉かけ・援助など、羞恥心とプライバシーに配慮した支援に努めるほか、子ども自身も羞恥心の意識を持てるような声かけを行い、気づきの芽を養っている。夏場のプール時の子どもの着替えは保育室内で行い、プール周辺は外部からの視線に配慮するなど、環境面でも子どものプライバシーや人権の保護に努めている。</p> <p>子どもの人権尊重を保育の基本として位置づけ、保育実践や職員指導に取り組んでいる</p> <p>子どもの人権尊重は保育の基本として位置づけ、法人共通の保育理念と心がける保育にその思いを謳い、保育での実践や職員の指導に取り組んでいる。職員の倫理規範や保育・業務実践上の基本的な心得等を示す系列園共通の「BBハンドブック」や保育課程に、子どもを尊重する基本姿勢を示し、入職時の研修等で周知を図っている。今回の利用者調査結果では全般的に高い満足で推移しつつも、職員の待遇等に関する意見も寄せられており、園としても今回の結果を踏まえ、組織内で再確認を図ってゆく意向である。</p> <p>虐待防止に向けて仕組みを整え、早期発見に努めている</p> <p>虐待の防止に向けて、市の「子どもの虐待対応マニュアル」も活用して早期発見の徹底を図っている。「BBハンドブック」に早期対応について記載し、朝の受け入れ時の視診から傷や衣服の乱れなど虐待の予兆を把握するよう努め、疑いがある場合には子育て総合センター等の関係機関に速やかに通告する仕組みとしている。また個別のケースなどに応じて会議等で話し合うなど、理解を深める機会を設けている。今年度、系列5園の副園長によってマニュアルの見直しを始めており、自園の虐待に関するマニュアルの必要性を認識して検討を進めている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	11/11
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
系列園共通のマニュアルを整え、入職時の研修で周知している 法人系列園共通マニュアル「BBハンドブック」等に職員が守るべき倫理規範や保育手順等を明示するほか、地域の保育協議会の保健師・看護師部会で作成した「保育園に元気に通うための健康ガイドブック」を保健衛生マニュアルとして活用している。これらマニュアル類は全職員に配付するほか、事務室や各クラスに常備し、常時確認できるようにしているが、機会を設けての周知は入職時の研修程度にとどまっている点や、「BBハンドブック」等の見直しも課題としてとらえており、改善に向けたマニュアル整備と共通認識を形成する取組に期待したい。		
業務の改善等において、職員の提案や保護者の意見等を活用している 園運営や保育、業務等の見直しにあたり、保護者の意見・要望や職員の意見を参考にして改善に取り組んでおり、会議時に准職員の意見や要望なども聴き取る機会も設けられている。今年度、職員からの提案を踏まえ、園内の情報共有のため行われている「10分ミーティング」の効率化を図るべく、各クラスの出席状況はホワイトボードに記載して、ミーティングの中で子どもの様子を伝えられるように工夫している。また二つの保育室で行う3・4歳児の混合クラスについて、クラス名で呼ぶと子どもがわかりづらいことから、部屋の名前で呼ぶこととしている。		
安全の確保に向け、「安全衛生委員会」が中心となって取り組んでいる 園内の「安全衛生委員会」が園長・副園長のほか各クラスや各職域の代表者で構成され、園内外の安全確保に取り組んでいる。同委員会ではチェックリストを用いて園内外の安全点検を毎月実施し、その結果に基づく検討を行うほか、防災・防犯関連の点検、避難訓練の開催や反省などを行っており、今年度は各室内の備品の落下防止に向けた補強を行うほか、近くの用水路のオーバーフローを踏まえて土のうを購入し、事故に関する報道事例を共有しながら自園の危険箇所の確認につなげるなど、随時の改善にも取り組んでいる。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 37/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている	評点(00000)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
評価項目1の講評	
<p>子どもの全体像を把握し、主体的に活動できるように環境構成を工夫している</p> <p>子ども一人ひとりの「あゆみ(児童票)」の記録に基づき、個々の発達の過程や生活環境など職員間で情報共有をし、子どもの育ちを支えている。登降園時には保護者とのコミュニケーションを積極的に行うことを心がけ、保護者の気持ちや家庭の様子を含めた全体像の把握をしている。子どもの主体的な活動が展開できるように、子どもの発達や状況を踏まえながら、子どもが自由に玩具や活動を選び、集中して行ったり仲間とともに遊びの幅を広げるなど、さまざまな活動が展開されている。</p> <p>個々の細やかな支援とともに、異年齢での活動による子ども同士の育ち合いを深めている</p> <p>0歳児は緩やかな担当制として、それぞれの担当保育士が子どもとの愛着形成の基盤を築き、一人ひとりの子どもが安定した気持ちで過ごせるような支援を行っている。3・4歳児は混合クラスの中で、臨機応変に年齢を分けた活動も行われ、それぞれの子どもが自然に関わりを深めている。3～5歳児室とホールを全開放し、子どもが自由に行き来をして好きな遊びに興じる時間も設けられ、遊びの共有や生活の場面でお世話をしたり、自分の気持ちを表現して助けてもらうなどの経験を繰り返して、年齢相互で育ち合えるような関わりを促している。</p> <p>子どもの特性に応じた環境の配慮や個別支援を行っている</p> <p>発達などの面で配慮が必要な子どもには個別計画を作成し、臨床心理士の巡回指導も活用して特性や状況を踏まえた支援を図り、毎月の保育会議にて関わり方や個別のエピソードを職員間で情報を共有しつつ、継続的な見守りに取り組んでいる。また個別に落ち着ける環境の設定を行い、一人ひとりが安心できるスペースを確保している。子ども同士のトラブルが生じた時は双方の思いを汲み取りながら、落ち着いた状況で話し合いが行えるように促す姿勢を大切にしている。</p>	

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時には保護者と子どもの様子を共有できるようにしている</p> <p>登園時は可能な限り正規職員が対応し、口頭や「子育てノート(連絡帳)」にて子どもの様子を把握し、体調の変化が生じている場合には「登降園記録簿」や「引き継ぎノート」に記入をしている。0歳児の子育てノートは家庭での生活も考慮できるよう、24時間記入できる書式となっており、家庭と園との連続した生活の流れを重要視している。食事・排せつ・睡眠時間を伝え合い、子どものその日の成長や微笑ましいエピソードを記述するなど、子どもの毎日について保護者とさまざまことを共有し、信頼関係を構築と子どもへの理解の深化に努めている。</p> <p>一人ひとりの発達に合わせて基本的な生活習慣が身につけられるようにしている</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向け、個々の発達を促し興味や意欲が見られた頃から徐々に無理のない援助を行っている。トイレトレーニングは個別対応に努め、個々の発達状況や家庭状況を見ながら無理なく進めるようにしている。着脱は低年齢児から靴下の脱ぎ履きなどに取り組み、棚等には個人のマークを貼って自分のものや場所を認識できるようにしたり、5歳児は昼寝用のシーツを畳んでしまうなどを習慣としている。また発達に応じてうがい・手洗いを行うなど、日々の積み重ねから自然に身につけることができるようにしている。</p> <p>子ども一人ひとりの安眠・休息とSIDS予防に向けた支援を行っている</p> <p>休息については、子どもの生活リズムに配慮した取組に努めており、食事中に眠たくなってしまう時や午前寝にも対応しているほか、夕方以降に疲れて横になりたい子どもにも場所を確保して欲求に応えている。SIDS予防への対策として、0歳児は5分ごとに呼吸・状態のチェックを行って記録を行い、1歳児についても確認をしている。また低月齢の0歳児にはベッドを使用するなど、安全にも配慮を行っている。5歳児は就学に向けて徐々に午睡時間を短くしているが、一定時間は身体を休めるようにすることで、心身のバランス維持を図っている。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

一人一人の満足感を達成するためにさまざまな保育が展開されている

園は生活の場・育ちの場・保護者との協同の場として、子どもが日々の生活の中で保育者との応答的な関わりを繰り返し、生活習慣の自立に向けて丁寧な支援に努め、子どもの意欲を促しながら一つひとつの達成感につなげている。また、子どもの遊びを豊かに展開させるために、子どもの興味や関心の行き先を見通した保育に取り組み、個々のやりたい活動を保障しつつ、さらに発展するような声かけや見守りを行い、子ども自らが考え五感を刺激して、個々や仲間同士が満足感を抱いて遊び込めるような保育を実践している。

遊び込める環境を設定し、子ども自ら遊びを選び、楽しめる活動を提供している

子どもの自発性を促すために、玩具の充実やコーナーの設置など、発達に応じた室内環境を整備して、2～5歳児のフリー活動時間には各自が好きな活動を選択して遊び込めるような配慮をしている。また子どもの制作した作品を各保育室や廊下に掲示するとともに、季節に応じた装飾を施すなど、保育環境の充実に努めている。集団活動に主体的に関われるようにするために、年齢に応じてリズムやルールのある遊び、伝承遊びなど集団ならではの遊びを行い、仲間とともに楽しめる活動が行われている。

園外への散歩や園庭遊びなど、子どもが季節感を感じ、身体を動かす機会を設けている

子どもが日常的な生活の中で、四季を感じながら自然環境とふれ合い、五感を通してさまざまな体験を積み重ねてゆくことで、好奇心や探究心を培えるような戸外活動を行っている。日々の活動は近隣の公園や河川敷、神社などへ出かけ、春には草花を摘み、秋には木の実・落ち葉拾いなど、さまざまな事柄や事象に触れる機会を設けている。また園庭でも築山の変化に富んだ地形を活用し、子どもたちが活動の中で運動能力を高めながら、遊びの拠点として鬼ごっこやかくれんぼ等の遊びを集団で楽しめる環境が整えられている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>日々の活動や子どもの興味とのつながりを持たせた行事を展開している</p> <p>「つばめ祭り(運動会)」は親子でのふれ合い遊びを中心に行われ、各学年のそれぞれの発達に即した内容を考案して、親子で楽しめる一日としている。会の終盤には全員で手つなぎをしてリズム遊びを行い、年齢に関わりなく子どもや保護者、職員との親睦が深められ、コミュニケーションの深まりが感じられる取組となっている。12月の「わくわくデー」などとともに、行事の内容を企画する際には、子どもが慣れ親しむ曲や踊り、幼児では日々の興味関心からつなげ、日頃の保育の遊びと運動性のある内容とすることで、子どもがより楽しめるようにしている。</p> <p>子どもが行事を通して仲間意識や協力し合える喜びを感じられる内容を企画している</p> <p>5歳児の「お泊まり会」では、親元を離れて一人のできるようになることや、友達と協力すること、集団行動の大切さを知ることが目的とし、テーマを決めて企画している。日中は公共交通機関を利用してプラネタリウムへ出かけ、在園児と保育者が制作をして園内を水族館風に装飾を施し、子どもたちの期待感を高めるとともに、中庭のプールを活用してお風呂屋さんにしたり、夜は職員全員で手品や影絵・劇などを行うなど、子どもにとって特別な一日となるような内容として、園全体で関わりを持っている。</p> <p>行事を通して四季や旬を感じ、さまざまな特性の人々との交流が持たれている</p> <p>秋の実りを感じる「食」をテーマにした「いなほ祭り」は、収穫の喜びを味わい、食べることの大切さを感じられる内容となっている。提携する農園の生産者から直接親子で実りについての話を聴いたり、子どもたちが日頃から食している産地の米を使用したおにぎりや汁物などとともに味わうなど、親子・地域の人々や卒園児などさまざまな人々を招待し、ともに楽しめる恒例の行事となっている。また「わくわくデー」は子どもが取り組んでいる遊びを親子で楽しむ機会とし、子どもが何をしたいのかを対話を通して積み重ね、当日を迎えている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが毎日長時間の生活を楽しむことができるよう、環境設定を工夫している</p> <p>長時間を過ごす子どもがくつろげる環境になるように、園全体が木の温もりで包まれている。木製のロッカーや棚、畳の場所など家庭の環境に近いものが用意されている。0・1歳児はデッキから中庭に出て気分転換をしたり、専用の砂場や築山で伸び伸びと遊ぶことができる。また2階の絵本コーナーでは、子どもがそれぞれに好みの絵本を選び、仲間と並んで読み合ったり、保育室に持って行き、保育者に読み聞かせをしてもらうなど、多彩な絵本に囲まれ、ゆっくりと楽しむことができるような空間となっている。</p> <p>安全面に配慮しながら、異年齢の子ども同士で遊ぶ機会を設けている</p> <p>朝・夕の時間帯においては、乳児と幼児の遊びを保障し、安全にゆったりと過ごせるよう、合同時間が短くなるような配慮とともに、子どもの体調を考慮して、感染症が流行する時期には合同時間をさらに短くするなど、状況に応じて対応し、感染症予防にも努めている。日頃から幼児が中庭に通じる滑り台を利用して園庭に出たり、庭を駆け回る姿を目に留めるなど、乳児と幼児が日常的にともに育つ環境となっているほか、年上に甘えて助けを求める姿に、応える年上の子の姿が見られるなど、年齢相互の育ち合いが持たれている。</p> <p>保護者に情報や様子を伝達するための工夫や仕組みの整備がなされている</p> <p>延長保育「えくぼ」の時間帯には、延長担当職員とともにクラス担任をローテーションで配置することで子どもが安心できるよう配慮し、延長時間帯にかかる保護者とのコミュニケーションも深めている。日中の0～2歳児の個々の活動内容は「子育てノート」で伝達し、幼児の全体活動の様子は「壁新聞」として写真とコメントで発信している。毎月のクラス便りや園便り、定期的に行う個人面談等でも子どもの姿を詳しく伝える工夫に努め、ブログでも随時毎日の保育活動の様子を発信するなど、情報伝達に注力して保護者との共通理解が深まるようにしている。</p>		

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目6の講評

安全に配慮した食材と献立の工夫などから、子どもの食への意欲と興味を促している

給食食材は最大限安全に配慮したものを使用し、和食を基本に洋・中華風も加えたバラエティーに富んだ献立としている。調理室を覗けるコーナーが設置され、子どもたちが調理員との応答的なやり取りから、食への期待感を高めてゆく様子も見られている。また食物の生産者とのつながりも大切に考え、「いなほ祭り」の際には連携を図り、食に対する知識を深め保護者に啓発を促したり、定期的なお便りを掲示することで子どもにも食物の成り立ちを伝えるなど、子どもの興味や意欲を促している。

アレルギー対応や離乳食など、個別状況に応じた食事の提供をしている

離乳食は発達に合わせて4期に分けて提供している。また家庭との連携を密にし、段階が進む時には形状や内容が記されている写真を展示し、目安にすることで園と家庭で連携を取りながら進めている。また発達に応じて進捗も柔軟に調整するなど、子どもが無理なく食べられるようにしている。食物アレルギー児には入園時に保護者から医師の指示書を提出してもらい、面談を行ったうえで具体的な除去の確認を行っている。日々の食事提供時には専用トレーに名前を記入し、専用テーブルで担任がともに座り、見守りながら食べている。

さまざまな食育活動を通して、子どもたちの食べる喜びを感じる心を培っている

子どもが楽しく食べること、食に対して意欲を持てることを大切に考え、子どもが食材や調理に関心を持つような工夫が行われている。野菜が苦手な子の多いクラスで、目の前調理を行うことで食べる意欲につなげたり、子どもが慣れ親しんでいる絵本をもとにクッキングに展開をし、パンやピザ・クッキー、ジャガイモ団子など、さまざまなものに挑戦している。保護者には保育参加時に給食を提供し、園の味を知ってもらうほか、食育の様子の写真を掲載した「壁新聞」を掲示するなど、食に対する園の取組を随時発信している。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>専門機関とも連携しながら日々のケガや病気を予防できるように取り組んでいる 感染症の予防に向け、看護師も適宜関わりながら、3歳児頃からうがいを励行し、手洗いは0歳児後半頃から日々の生活の中で発達に応じて取り組んでおり、歯磨きの指導も行っている。散歩前や遊ぶ前などには約束ごとを伝え、交通公園で行われる市の関係機関による交通安全教室や、市の担当課による出前教室への参加など、交通マナーを学んで安全を意識できるように取り組んでいる。また毎月の避難訓練では避難の約束ごと「おかしも」を伝えるほか、日常的に遊びに避難滑り台を使って災害に備えている。</p> <p>定期的な健診や日々の状態把握によって、子どもの健康管理に取り組んでいる 年齢に応じて定期的に行う身体測定で子どもの発達状況を確認し、嘱託医によって行われる健康診断や歯科検診等で定期的に子どもの健康状態を確認しており、日々の支援に活かすほか、保護者の希望に応じて健康相談など、連携ができる体制を整えている。また市の巡回相談による助言を受けられる体制も整えている。日々の子どもの健康状態は登園時の視診に加え、保護者からの伝達や連絡帳などによって把握するとともに、子どもの状況に応じて昼ミーティングで共有されるほか、看護師と連携して子どものケアに努めている。</p> <p>嘱託医の健康講座、保健情報の提供によって、保護者への啓発を図っている 園内で感染症が発生した場合には、発生状況を園内に掲示するほか、臨時の保健便りを発行して保護者の注意を喚起して蔓延予防に努めている。SIDS対策として、睡眠中の呼吸等の確認を0歳児対象に5分間隔で行い、「生活時間チェック表」に記録している。また感染症やSIDSなどに関する情報を入園時に説明するほか、保健便りの配付や行政等から情報の掲示など、保護者に保健に関する情報を随時提供している。入園時には嘱託医による健康に関する講座なども開催するなど、さまざまな保健面の啓発に取り組んでいる。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者が安心して子どもを預けられるよう、個々の事情に応じた支援に努めている</p> <p>保護者が仕事と子育てを両立するうえで、安心して子どもを預ける園であることを常に組織として心がけ、保護者一人ひとりに丁寧に接し、情報交換を密にし、気持ちを通い合わせられるよう努めている。保護者や家庭などの個別状況は、入園前の面談のほか、入園後は日々の会話や「子育てノート(連絡帳)」、面談などで把握しており、面談は保護者の希望に応じて随時の受付もしており、必要に応じて園からも申し入れて行いながら、出産・病気や就労など、家庭や保護者の個別の事情に配慮できるようにしている。</p> <p>さまざまな工夫で、保護者の子どもの育ちや園の取組への理解を得られるようにしている</p> <p>クラス懇談会では年間テーマやクラス目標、年齢ごとの発達の特徴や保育内容を保護者に伝えるほか、交流機会として「おしゃべりCAFÉ」を設けている。保育参加は6～2月の間で保護者の都合に応じて随時受け付け、半日間クラスに入ってクラスや子どもの様子を見てもらうほか、給食も一緒に食べられるようにしている。昨年度から保護者との面談時には「あゆみ(児童票)」を渡し、子どもの育ちを共有しながら共通理解が深まるよう取り組んでおり、日々の「壁新聞」等による情報発信と併せ、園の取組や思いが保護者に具体的に伝わるよう配慮している。</p> <p>保護者の要望・意見を活用し、サービス向上につなげられるように取り組んでいる</p> <p>保護者の声を保育や運営等に反映し、サービスの向上につなげられるよう、さまざまな機会を通じて保護者の意向の把握に取り組んでいる。「なんでもご意見箱」を園内に設置し、匿名の意見や苦情を受け付けられるようにするほか、口頭や面談で一人ひとりの要望等を把握できるようにしている。また利用者調査や行事後の「子育てノート」を通じた感想などから意見・要望を確認するほか、懇談会時のお茶を飲みながら歓談する「おしゃべりCAFÉ」など、交流の機会を通じて意見・要望を聴き取る機会としている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の一員として、園のさまざまな保育の専門性の提供に取り組んでいる</p> <p>園の思いである地域貢献の実現に向けて、今年度6月に地域の子育ての拠点となる新たな施設を開所した。継続して取り組んできた親子サロン「びーだま」や育児講座、本園舎での保育所体験のほか、系列のバオバブ保育園と協働して発行する「プレーメンの庭から」を通じた情報提供、リフレッシュとしても利用できる一時保育や栄養・育児相談などを支援事業として展開している。保育所体験では乳児を対象に半日間クラスで園児たちと一緒に活動でき、「びーだま」では週4日間、気軽に立ち寄れる地域の子育て世帯の交流の場を提供している。</p> <p>各種の地域子育て支援の活動は、系列園と協働して振り返りを行っている</p> <p>各種の地域子育て支援事業は専属のスタッフによって運営が行われており、各活動は「びーだま日誌」に記録して次年度に活かせるようにしている。またバオバブ保育園と合同の「地域委員会」が各園の支援事業の活動報告をとりまとめ、合同職員会議において次年度の活動方針等が検討される仕組みとなっており、今年度については両園の副園長と専属スタッフで構成される同委員会の企画担当によって、事業の年間の振り返りを行う予定となっている。今後は新体制によるさらなる事業実施の仕組みづくりにも取り組みたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-2-1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある
タイトル①	新環境での子育て支援事業を展開し、園の思いの実現に向けて取り組んでいる	
内容①	現在の園舎に移転後、それまで地域から好評を得ていた地域向けの親子サロン「びーだま」を、規模を縮小しながらも近隣の施設で継続してきたが、今年度6月に新たな活動の拠点となる東園舎を開所し、「びーだま」や本園舎での保育所体験、育児講座に加え、一時保育や絵本の貸し出し、栄養・育児相談など、活動内容の充実も図りつつ、アンケートによるニーズ把握にも努めながらさまざまな取組を展開している。今後もさらに園の思いである地域への貢献に向け、事業の充実を図りながら在園・在宅の枠を超えた子育て支援に取り組んでゆく意向である。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	園目標「共育て」に向け、子どもの育ちや園の取組を共有できるよう取り組んでいる	
内容②	保護者と職員が協力して園の設備のメンテナンスなどを行う毎年恒例の「ワークショップ」や各種行事など、保護者との交流機会を設けるほか、保護者と同じ視点で子どもの育ちを共有し、保育を進められるよう、昨年度から年2回の面談時に「あゆみ(児童票)」を渡してそれぞれの保護者にわが子の育ちを伝えるとともに、保護者から家庭での様子を伝えてもらうようにしている。また園のブログのほか、クラス便りでもさまざまなエピソードを伝え、ポータルフォリオ(壁新聞)を通じて子どもたちの日々の様子を発信している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる
タイトル③	年2回の振り返りを含め、会議の場を通じた知見の共有と相互研鑽がなされている	
内容③	乳幼児各クラス及び全体での定期的な会議で、保育その他の反省や課題検討がなされるほか、中間・年度末には全職員参加の振り返りを行っている。各クラス及び専門職から期中の反省や日頃の保育のエピソードをまとめた資料が提出され、全員がそれを精読して記した感想も確認したうえで主要トピックについて話し合う流れとして、子ども一人ひとりの育ちや保育の課題をクラスや職種を超えて共有しつつ、各人の視点を多様にし、見識を深めることにつなげている。職位・職種や在職経験等の別なく、より忌憚なく議論を深めてゆく工夫を模索している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの育ちを丁寧にとらえた保育が実践され、保護者と共有をしても成長を見守っている
	内容	子ども一人ひとりの成長発達に寄り添い、0・1歳児は緩やかな担当制として、個々の発達を見守りながら細やかな援助に努め、3・4歳児は異年齢活動を行うなど、小集団形成をして一人ひとりの関わりを大切に保育展開がなされている。個別日誌や子育てノートに一人ひとりの丁寧な視点での子どもの多面的な姿をとらえ、個別の発達記録「あゆみ」には個々の興味関心、人との関わりなどを通してのエピソードや子どもの姿を記載し、保護者にも開示をすることで、子どもの成長を相互に確認しつつ、ともに喜びを感じ合えるような関係づくりにもつなげている。
2	タイトル	園内の各所で、子どもの意欲や好奇心が発揮できるような環境構成の工夫が行われている
	内容	子どもが主体となってそれぞれの意欲や好奇心を発揮できるよう、保育室内外の環境構成にさまざまな工夫を採り入れている。幼児室には興味に応じた玩具や自由に制作を行えるような廃材や教材、素材類が並べられ、子どもの意欲をもとに遊びが展開されている。また園庭に砂場と築山、中庭にも砂場が設置され、夏季は水遊びも存分に楽しめる環境となっているほか、保護者と協力して作り上げたステージ・梅の木を利用したロープワーク・今年度設けた雲梯や鉄棒など、子どもが思い思いに活動し、仲間とともに駆け回り存分に楽しめる空間が用意されている。
3	タイトル	食事の提供においては、食材の安全性にも配慮しながら、子どもたちが楽しみにし、おいしく味わえる工夫に取り組んでいる
	内容	子どもが食を心待ちにし、楽しんで食べる意欲を促しながら、安全で安心な給食提供に努めている。米や果物などの生産者との交流を定期的に行い、子どもが食べている食材を保護者に試食してもらうことで、親子でのおいしさの共有を図り、安心感につなげている。エントランスには基本的な食材を利用し、献立のヒントになるような写真とレシピがファイリングされ、保護者へ発信している。また年齢や活動、登園時間に応じて提供時間の工夫が行われ、個々の生活リズムに応じて小グループで食事が摂れるような細やかな配慮もなされている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員として求められる姿勢の再想起に向け、さらなる組織内の啓発に向けた各種の取組が期待される
	内容	「BBハンドブック」等の見直しを課題としてとらえ、系列5園の副園長による危機管理マニュアルの作成に取り組んでいる。また職員の基本的な規範の徹底については随時の指導がなされる一方、現場での子どもへの接遇などについては、利用者調査でも意見が寄せられ、経営層もさらなる共通理解形成に向けた機会づくりを課題と認識している。これらの改善に向けた手引書等の見直しや整備、また職員として求められる姿勢の再想起に向けた仕組みづくりなど、さらなる組織内の啓発に向けた取組が期待される。
2	タイトル	園としての中・長期的な経営や課題解決について、現場や次世代のリーダーとともに計画的に取り組む体制づくりが期待される
	内容	法人としての3期15年にわたる計画が策定されており、園単位での中・長期的な計画についても、開園3年目を迎え、東園舎も完成して事業実施の体制がほぼ整った現況に鑑み、次代への経営体制の継承も含め、策定の必要性が認識されている。制度・政策や待機児を含む保育ニーズの見通しなど、予断を許さない経営要素も多い中ではあるが、小学校との関係を含めた保育内容のさらなる検討などソフト面の課題を含め、現場や次世代を担う中間層も交えつつ策定し、各年度の事業計画とも連動させ、さらなる園のステップアップの支柱とすることが期待される。
3	タイトル	整備が進められる個別の人材育成制度について、さらなる機能の向上と発揮に向けた仕組みや運用体制の検討を継続されたい
	内容	職員には各人の年度末の振り返りと副園長との面談による緩やかな目標管理を行い、これを踏まえて自己研鑽や研修派遣、職場内指導がなされる仕組みとなっている。半期・四半期など定期的なサイクルで行う各人の取組の進捗確認、記録様式への指導者側の所見や園の望む成長・研鑽の明記など、目標管理制度としての機能向上に向けた工夫が期待されるほか、昨年度法人において制定した職階ごとに求める能力・資質及び研鑽の指標とも関連・整合をより意識するなど、計画的な人材育成を支える仕組みとして、さらに精度を高めてゆくことが課題と思われる。